



2026年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2026年2月13日

上場会社名 株式会社 創健社

上場取引所

東

コード番号 7413 URL <http://www.sokensha.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 中村 靖

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長

(氏名) 飯田雅之

配当支払開始予定日

TEL 045-491-1441

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	3,660	3.8	26	58.8	28	59.6	31	19.5
2025年3月期第3四半期	3,805	1.1	64	116.4	70	119.0	39	77.0

(注)包括利益 2026年3月期第3四半期 48百万円 (3.5%) 2025年3月期第3四半期 46百万円 (37.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
		円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	45.11		
2025年3月期第3四半期	56.02		

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第3四半期	3,483	1,194	34.3	1,707.50
2025年3月期	2,943	1,160	39.4	1,658.54

(参考)自己資本 2026年3月期第3四半期 1,194百万円 2025年3月期 1,160百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期		0.00		20.00	20.00
2026年3月期(予想)		0.00		20.00	20.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	5,119	3.4	30	54.5	33	54.0	16	66.3	22.87	

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名)

、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期3Q	705,500 株	2025年3月期	705,500 株
期末自己株式数	2026年3月期3Q	5,795 株	2025年3月期	5,745 株
期中平均株式数(四半期累計)	2026年3月期3Q	699,739 株	2025年3月期3Q	699,755 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 有(任意)

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(重要な後発事象)	9

[期中レビュー報告書]

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年12月31日）におけるわが国経済は、世界的な人流の回復に伴い経済が正常化してまいりました。一方で国際的な情勢不安の長期化、アメリカの関税問題を含む世界情勢の動きに加え、給与の上昇が大手企業に限られていることや、原油などのエネルギー資源や原材料価格、販売価格等の度重なる値上げ、円安の動向等は、生活コストの高止まりを招き依然として景気の先行きを大きく不透明にしております。

当社グループを取り巻く食品業界におきましては、外食産業、観光産業向けの需要は緩やかな回復の兆しがみられ、加えてECサイトやデリバリー・サービスなど、非接触での販売・サービスが拡大しておりますが、物価上昇に伴う消費者の節約志向の高まりや人手不足、物流問題など、中小企業は大手企業との二極化が見られ引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境の下、不要な食品添加物を使わない自然食品専業企業として55年余の年月を積み重ねてきた歴史に信頼をいただいている当社グループは、第6次中期経営計画『新たな成長に向けた価値観の向上』（2023年4月1日～2026年3月31日まで）を作成しました。その最終年度となります当連結会計年度におきましては、2024年4月1日より施行された食品添加物の不使用表示に関するガイドラインを遵守し、環境に配慮したオーガニック商品や身体にやさしいプラントベース商品を消費者に分かりやすく販売し、当社グループブランド商品のファン作りに注力するとともに、限りある原材料を最大限に活用し、目標の営業利益額を達成するために役員・社員一丸となって取り組んでまいりました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの商品品目別売上高の主な増減につきましては、「嗜好品・飲料」が、サイダー等の売上減があったものの、メイシーシリーズのお菓子等の売上増により前年同期比5.8百万円増（7.8%増）の8億16百万円、「その他」が、除湿器等の売上減があったものの、ヘルス機器等の売上増により前年同期比1百万円増（2.8%増）の47百万円、「乾物・雑穀」が、かんぴょう等の売上減があったものの、リニューアルした有機プロテイン等の売上増により前年同期比1百万円増（0.7%増）の1億95百万円となりました。しかしながら、「調味料」が、有機バルサミコ酢等の売上増があったものの、容量を変更した主力商品のマヨネーズ等の売上減により前年同期比1億30百万円減（9.6%減）の12億24百万円、「油脂・乳製品」が、ココナッツオイル等の売上増があったものの、えごま油等の売上減により前年同期比36百万円減（10.4%減）の3億18百万円、「副食品」が、有機トマト缶等の売上増があったものの、らっきょうの甘酢漬等の売上減により前年同期比34百万円減（3.5%減）の9億68百万円、「栄養補助食品」が、パパイヤ酵素等の売上増があったものの、天茶エキス等の売上減により前年同期比5百万円減（5.7%減）の89百万円となりました。

この結果、全体の売上高は、36億60百万円（前年同期比1億45百万円減、3.8%減）となり、売上総利益率25.2%と前年同期比0.1ポイント増となりました。販売費及び一般管理費は8億96百万円（前年同期比6百万円増、0.7%増）となり、営業損益につきましては、営業利益26百万円（前年同期比38百万円減、58.8%減）となり、経常損益につきましては、経常利益28百万円（前年同期比41百万円減、59.6%減）という結果にて終了しました。また親会社株主に帰属する四半期純損益につきましては、固定資産（当期より使用しなくなった社宅）の売却による特別利益6百万円、及び投資有価証券売却益8百万円を計上しましたが、棚卸資産廃棄損による特別損失10百万円を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益31百万円（前年同期比7百万円減、19.5%減）となりました。

品目別販売及び仕入実績の状況

当社グループの事業は単一グループであり、当第3四半期連結累計期間の販売及び仕入実績をセグメントごと及び事業部門ごとに示すことができないため、品目別に示すと、次のとおりあります。

① 販売実績

品目別	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)			主要商品
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	前年同期比	
油脂・乳製品	355,002	9.3	318,100	8.7	10.4%減	マーガリン・ベニ花油・えごま油・オリーブ油・ココナッツオイル・菜種油・原材料用サラダ油・ごま油、カメリナオイル
調味料	1,354,395	35.6	1,224,347	33.5	9.6%減	醤油・味噌・砂糖・塩・酢・カレー・シチュー・マヨネーズ・ドレッシング・液体だし・顆粒だし・醸酵調味料・蜂蜜
嗜好品・飲料	757,276	19.9	816,159	22.3	7.8%増	菓子・野菜果汁飲料・お茶・ドライフルーツ・五穀茶・発酵飲料・ナッツ類・マイシーシリーズ(菓子)・豆乳・はちみつ製品
乾物・雑穀	194,413	5.1	195,681	5.3	0.7%増	小麦粉・パン粉・米・黒米・雑穀・鰹節・昆布・ひじき・蓮根粉・はとむぎ粒・餅きび・押麦・キヌア・切干大根・チアシード・炒り胡麻・もち麦・味付のり・干し桜えび・タピオカ粉末・おから・プロテイン
副食品	1,003,371	26.4	968,598	26.5	3.5%減	ジャム・スープ・レトルト食品・麵類・缶詰・熟成発酵黒にんにく・パンケーキ粉・らっきょう甘酢漬・シリアル食品・みそ汁・お節お重商品・炊き込みごはんの素・五目ちらし寿司の素・かき揚げ(冷凍)・コンビーフ・ピーナッツスプレッド・蒲鉾
栄養補助食品	95,004	2.5	89,546	2.4	5.7%減	青汁・キダチアロエ・梅エキス・ミドリムシ・ハトムギ酵素・乳酸菌・天茶エキス・コラーゲン・碁石茶・生姜粉末・板藍根・ルイボス茶・ルテイン・モリンガ(ハーブ系青汁)・くま笹エキス・ビタミンC
その他	46,510	1.2	47,827	1.3	2.8%増	トイレタリー・機械器具・化粧品・虫よけスプレー・歯磨き粉・ウイルス対策品など
合計	3,805,974	100.0	3,660,262	100.0	3.8%減	—

② 仕入実績

品目別	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)		
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	前年同期比
油脂・乳製品	283,281	9.9	272,331	9.9	3.9%減
調味料	998,887	34.9	922,148	33.4	7.7%減
嗜好品・飲料	595,901	20.8	626,793	22.7	5.2%増
乾物・雑穀	166,440	5.8	168,315	6.1	1.1%増
副食品	694,432	24.3	636,048	23.1	8.4%減
栄養補助食品	63,189	2.2	64,863	2.4	2.6%増
その他	60,657	2.1	66,115	2.4	9.0%増
合計	2,862,791	100.0	2,756,616	100.0	3.7%減

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて5億36百万円の増加となりました。この主な要因は、「受取手形及び売掛金」の2億73百万円増加及び「現金及び預金」の2億1百万円増加などによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて3百万円の増加となりました。有形固定資産の15百万円減少など（リース資産8百万円減少、土地6百万円減少など）があったものの、「投資有価証券」の20百万円増加などによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて5億39百万円増加し、34億83百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて5億9百万円の増加となりました。この主な要因は、「支払手形及び買掛金」の3億77百万円増加及び「短期借入金」の1億57百万円増加などによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて3百万円の減少となりました。この主な要因は、「長期借入金」30百万円増加などがあったものの、「退職給付に係る負債」35百万円減少などによるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて5億5百万円増加し、22億88百万円となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて34百万円の増加となりました。この主な要因は、「利益剰余金」の17百万円増加（親会社株主に帰属する四半期純利益31百万円の計上、配当総額13百万円）及びその他有価証券評価差額金16百万円増加などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想に関しましては、前回予想（2025年5月16日に発表いたしました連結業績予想）から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	1,246,139	1,447,550
受取手形及び売掛金	682,221	955,581
商品及び製品	300,733	331,176
仕掛品	559	694
原材料及び貯蔵品	30,950	30,296
その他	37,219	69,069
貸倒引当金	△268	△283
流动資産合計	2,297,555	2,834,085
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	338,187	298,989
減価償却累計額	△278,581	△238,280
建物及び構築物（純額）	59,605	60,709
土地	86,361	79,770
リース資産	64,454	54,079
減価償却累計額	△24,018	△22,002
リース資産（純額）	40,436	32,076
建設仮勘定	940	1,080
その他	215,771	214,632
減価償却累計額	△195,450	△196,335
その他（純額）	20,320	18,297
有形固定資産合計	207,664	191,934
無形固定資産		
その他	17,896	15,535
無形固定資産合計	17,896	15,535
投資その他の資産		
投資有価証券	125,828	146,429
保険積立金	258,912	270,756
繰延税金資産	12,095	4,504
その他	24,368	20,746
貸倒引当金	△628	△601
投資その他の資産合計	420,575	441,833
固定資産合計	646,137	649,302
資産合計	2,943,693	3,483,388

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	411,781	789,271
短期借入金	489,194	646,774
リース債務	6,731	5,433
未払法人税等	39,612	217
賞与引当金	26,915	11,481
その他	104,527	134,642
流動負債合計	1,078,761	1,587,819
固定負債		
長期借入金	322,117	352,796
リース債務	32,708	26,380
役員退職慰労引当金	157,200	164,500
退職給付に係る負債	162,458	126,841
その他	29,873	30,308
固定負債合計	704,357	700,826
負債合計	1,783,118	2,288,645
純資産の部		
株主資本		
資本金	920,465	920,465
資本剰余金	45,965	45,965
利益剰余金	160,799	178,370
自己株式	△11,154	△11,287
株主資本合計	1,116,075	1,133,513
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	44,498	61,229
その他の包括利益累計額合計	44,498	61,229
純資産合計	1,160,574	1,194,742
負債純資産合計	2,943,693	3,483,388

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	3,805,974	3,660,262
売上原価	2,851,237	2,737,377
売上総利益	954,737	922,884
販売費及び一般管理費	889,956	896,169
営業利益	64,780	26,715
営業外収益		
受取利息	86	477
受取配当金	2,675	3,531
仕入割引	2,460	2,356
破損商品等賠償金	916	585
その他	3,624	1,230
営業外収益合計	9,762	8,181
営業外費用		
支払利息	3,732	5,584
その他	491	879
営業外費用合計	4,224	6,464
経常利益	70,318	28,431
特別利益		
固定資産売却益	—	6,443
受取補償金	—	100
投資有価証券売却益	—	8,502
特別利益合計	—	15,045
特別損失		
固定資産除却損	0	318
棚卸資産廃棄損	—	10,059
保険解約損	85	—
リース解約損	86	—
特別損失合計	171	10,377
税金等調整前四半期純利益	70,146	33,099
法人税、住民税及び事業税	30,944	1,533
法人税等合計	30,944	1,533
四半期純利益	39,202	31,566
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	39,202	31,566

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	39,202	31,566
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,441	16,731
その他の包括利益合計	7,441	16,731
四半期包括利益	46,644	48,297
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	46,644	48,297
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	23,351千円

(セグメント情報等の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

当社グループは、健康自然食品の卸売業として単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

当社グループは、健康自然食品の卸売業として単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年2月13日

株式会社創健社
取締役会 御中

保森監査法人
東京都千代田区

代表社員 公認会計士 稲葉 喜子
業務執行社員

代表社員 公認会計士 荒川 竜太
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社創健社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、

職業的専門家としての判断を行い、職業的懷疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 繼続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRL データ及び HTML データは期中レビューの対象には含まれていません。